

## ロービングウォールⅡ工法

【更新日】 平成30年9月22日

【取得会社】 ライト工業株式会社

【技術詳細に関するURL】 <https://www.raito.co.jp/>

### 技術の概要

ロービングウォールⅡ工法は、砂と安定化材の混合物に長繊維をエアの圧力で強制的に吹付ノズル先端にて混入させ、吹付けにより補強土構造物を造成し、その補強土表面を植生基材吹付工などで緑化する2種類からなる工法の一体施工方法の総称である。

本技術は、急傾斜対策、砂防・地すべり対策、山腹崩壊地の植生回復・緑化対策に適用が可能である。

### 技術の特長

- ① 長繊維を混入した補強土と表面緑化工の一体型緑化工であるため補強効果を有しながら全面緑化が可能である。
- ② 地山の改変を最小限にしながら斜面・法面の表層崩壊防止と自然環境の保全を図れる。
- ③ 厚さ20cm以上の土構造物を有し草本類から木本類まで多様な植物の根系伸長域となる。
- ④ 長繊維はエアの圧力により160mの長距離搬送が可能である。



施工前



ロービングウォールⅡ工法  
(法面保護タイプ)

現場吹付砕工  
(既存工法)

河川護岸の例

### 施工事例



吹付前

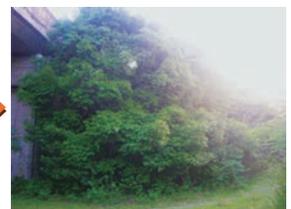


施工後

緑地法面防災工事の例



施工中(長繊維混入補強土吹付工)



施工21年後

擁壁タイプの例

### 他工法との優位点 (既存工法の現場吹付砕工に対し)

- ・ 砂・長繊維からなる補強効果を有する長繊維混入補強土に変えることで、鉄筋組み立て作業が不要となり、作業の省力化・経済性の向上が図れる。
- ・ 長繊維混入補強土に変えることで、全面緑化が可能となり、周辺景観と調和し周辺環境への影響が抑制される。
- ・ 構造物の形状を格子砕状から面状に変えることで、平滑吹付け仕上げが容易となり、コテ作業無し施工となり、省力化が図れる。

